

續臨没隋朝之軍を死疲多し其れ由且於北
京に初獲の由り遼東に官兵ヲ遣し其地諸
方より軍兵ヲ催使し使者速らるる庶民困窮狀
用之去る粮難後依而庶民之恨法と云れ其
奈り極におぬり由是を全竹竿の争闘を起し
唐即今し極多し而て次第に滋蔓の勢に相及操動
不一取事に等仕ら由おゆらる

大に後却解回ら指直り後人共し聞に任せし然
に同定吾孰斗少其れ乃右彼其愛し況、其れ
悲風少し候身入り西往に自然の遠く交り方
はりねをい候て候言七の容容を初下元を候

其六A

東村子

古川抄
佐原白儀

○も永の斗年より永の

將軍

宣下あ休の地を御休書組

首の書時

八七馬

お下り風流

仁七馬

関ト

それいれをさつて冷寒の常盤のねの
おぬのつく縁をさふ今より八千とせ景
へそ十返りの花をさふとさふとぬへ八めさ
かりらる時とるや

言少

の者も子界

末に度り

回村

